平成29年度 輸出に取り組む事業者向け対策事業に係る海外販売促進活動報告書

平成30年 2月13日

農林水産省

食料産業局長　殿

JA全農インターナショナル

米穀・園芸部

平成29年度における輸出に取り組む事業者向け対策事業の海外販売促進活動について、下記のとおり報告いたします。

対象国・地域　　：　香港

実施期間　　：　平成30年 1月31日～2月4日

（フェアに係る出張　：　平成30年 2月 1日～2月3日）

「香港全農フェア」

1．『香港全農フェア（イチゴ）』について

（1）期間　：平成30年1月31日（水）～2月4日（日）

（2）場所　：①大昌貿易行　九龍湾本社特設会場（1月31日～2月2日）
②DCH　Food　Mart　慈雲山店、黄大仙店、海怡半島店（2月2日～4日）

（3）出席者　：DAH　CHONGHONG, LIMITED　Anthony　Senior　Buyer
株式会社大昌貿易行　雷次長
全農インターナショナル　白石

（4）内容　：
旬のイチゴの販売拡大を図るため、いちごを中心とした販促を企画した。
複数産地のイチゴを品揃えし、消費者に日本産のいちごの多様性をアピールするとともに、選んで買える楽しさを体験して頂いた。

（5）出荷青果物（野菜・果実）品目詳細は、添付リストのとおり。

青果物	種類	産地（本部名）	等階級（規格）	容量・入数	バンドル・箱数
果実	もういっこ	宮城	平パック	330g×2p/ケース×6=1梱包	20
	紅ほっぺ	静岡	平パック	280g×4p/ケース×5＝1梱包	15
	紅ほっぺ		ホールパック	400g×2p/ケース×5=1梱	10
	紅ほっぺ		ゆりかーご	400g×12p/ケース=1梱	15
	きらぴ香		平パック	280g×2p/ケース×5＝1梱包	15
	華かがり	岐阜	平パック	270g×2p/ケース×5＝1梱包	5
	華かがり		化粧箱	400g化粧箱×10＝1梱	1
	ゆうべに	熊本	平パック	270g×2p/ケース×5＝1梱包	10
	ひのしずく		平パック	270g×2p/ケース×5＝1梱包	10
	いちご姫	山形	平パック	約500g×2p/ケース×5=1梱包	4
	おいCベリー	岡山	平パック	270g×2p/ケース×5＝1梱包	6
	さちのか	長崎	平パック	270g×2p/ケース×5＝1梱包	10
野菜	たまねぎ	北海道	L大	約75玉	5
	鳴門金時　（小袋）	徳島	AB LS 500g袋	5入	10
	キャベツ	神奈川	L	8玉	10
	大根	神奈川	L	10本	5
	えのき	新潟	A	200g×30入	40
	ぶなしめじ	新潟	A	170g×20入	25
	甘藷（袋）	宮崎	S以下	500g袋×20入	300
					516

2．大昌貿易行　九龍本社社内販促フェア

（1）日時　：　平成30年1月31日（水）～2月2日（金）

（2）場所　：　大昌貿易行　九龍本社内

（3）内容　：　本社内特設会場に加え、1階駐車広場で年3回（中秋節・クリスマス・旧正月向け）実施される大感謝祭にて、「イチゴ」を中心とした日本産青果物の販売・PRを実施。大昌行集団の社員だけでなく、近隣の会社員や住人が集まるビッグイベントなので、アピールの場としては最適である。

3．DCH　Food　Mart全農フェア

（1）期間　：　平成30年2月2日（金）～4日（日）

（2）場所　：　DCH　Food　Mart　慈雲山店、黄大仙店、海怡半島店

（3）内容　：　大昌貿易行自社経営のDCH Food Mart 店舗にて、イチゴ（リンゴ）の販促を実施し、そのうち3店舗で販促活動を行った。

（DCH　Food　Mart での販促の様子）

４．所感

（1）イチゴは複数産地を揃えたことにより、顧客に選ぶ楽しさを感じて頂いたことは、企画としては、よかったとバイヤーから好評であった。
また、『日本にはこんなにたくさんのイチゴの種類があるの？』といった驚きと羨望の声が来場者からはあがっていた。

（2）顧客からは『やはり甘さが購入の決め手！』『日本産は他の果物同様、信用できる』といった意見が多く、バイヤーからは『甘さと棚持ちを考慮する』『ケースで購入できるような2パック（4パック）入りを望む』といった要望・意見があった。

（3）大昌行の系列店舗DCH FOOD MARTでの販促では、マネキン効果が販売額に顕著にあらわれた。やはり試食することで購買意欲は上がる。
次回は1ヶ月ぐらいモデル店舗を決めて、店頭販売を継続実施することも検討したい。

（4）しかし今回の店頭販売では、冷蔵ケース内での販売でなかったので、購入後の棚持ちについては心配な面もあると思われる。イチゴの販促は難しいとも感じた。

（5）今回CAコンテナで輸送した。着荷状態に大きな問題はなく良かったと思われる。

５．　今後の進め方

（1）香港での日本産いちごの人気の高さをあらためて実感できたので、引き続き販売拡大に取り組む。

（2）船便での輸送に関しては、品種の選定を行い、着荷状態を確認しながら進める。

（3）エアー便に関しては、産地に近い空港から輸送し、コスト削減に取り組む。

（4）産地に還元できる販売の仕方を模索し、輸出向けの産地作りに取り組む。

以上